



県民センター ニュースレター

いまだ「復旧」ままならない雄勝港

35号 2015年5月21日

発行：東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2丁目5-10-305 TEL022-399-6907 fax022-399-6925

http://www.miyagikenmin-fukkoushien.com/ E-mail:miyagi.kenmincenter@gmail.com

この号の主な内容

- ① 石巻住まい連 石巻市長陳情
- ② 女川原発再稼働反対署名第6次提出 環境省へ公開討論会開催要請
- ③ 県内放射線汚染マップまとまる
- ④ メディカル・メガバンク問題公開質問状提出



石巻住まい連 石巻市交渉

石巻住まい連 石巻市長へ陳情 “被災者の頑張りへ後押しを”

4月17日（金）、「石巻・住まいと復興を考える会（略称：住まい連）」は、石巻市の亀山市長に対して、第4次の陳情行動を行い、被災者・支援者併せて25名が参加しました。石巻市からは亀山市長以下5つの部局から部長と各課長が対応しました。

復興公営住宅問題では、当初の4千戸の供給計画から5百戸増やすことが示されていましたが、当日は各地区別の建設予定数が明らかにされました。交渉参加者からは、「2次募集まで外れている。3次募集はいつになるのか？最終的にいつ頃入居できるかがはっきりしないと今後の計画が立てられない」との声が上がりましたが、年度内とされる3次募集（登録）の期日は明示されませんでした。また、「幸いにして登録は叶ったが、いつ入居できるかがはっきりしない。本当に生きているうちに仮設住宅から出られるのだろうか・・・」との切実な声もありました。

○さらに長期化する仮設住宅の総点検と改善を!!

「住まい連」として、復興公営住宅の供給の遅れや集団移転計画の遅延によって、さらに3～4年の仮設暮らしを余儀なくされることが明らかになっていると指摘し、人権にかかわる問題でもあり、施設・設備の総点検と改善を求めたのに対し、当局からは「ハード面では全仮設住宅の（目視）調査を行い、緊急の場合にはコールセンターや業者が対応する」との答弁がありました。

住民主体のまちづくりに支援団体・行政の協働を!!

各地域で、被災者支援、まちづくり活動に参加されている支援者からは、「町内会もまだまだ大変な状況にあり、まちづくりに積極的に足を踏み出せないでいるところもある。自主的な住民グループや支援団体も連携した活動ができるように行政としての関わり方の工夫が必要ではないか？」との意見が出され、当局からは「地域自治のしくみ」「地域包括ケアシステム」それぞれに、住民参加は不可欠であり、行政としても努力したい旨の発言がありました。

○震災から5年目、これからが正念場!!

「住まい連」としては4度目の陳情。陳情後の会合では、これまでの地道な活動の積み重ねで市当局からも前向きな答弁が引き出されてきていることを確信に、今後も取り組みをすすめることを確認しあいました。

女川原発再稼働反対署名 第6次 12,253筆を提出 累計12万超える

5月8日、女川原発再稼働の中止を求める署名の第6次分の県への提出が行われました。今回の署名筆数は12,253。これで累計120,684筆と12万を超えました。この数字は宮城県有権者比6.3%に相当します。

提出にあたっては、参加した9団体の方々がそれぞれの思いを阿部勝彦県原子力対策課長に伝えながら、署名簿を提出しました。

また前日の7日には仙台市繁華街で街頭署名活動も行われました。女川原発再稼働の中止を求める署名活動の目標数は30万筆です。次回の第7次提出ではこの目標の50%超え目指して更に県内世論を高めていきましょう。

指定廃棄物処分場問題 環境省に公開討論会開催要請

4月5日に開催された「環境省主催 指定廃棄物の課題解決にむけたフォーラム」で、処分場建設反対の声が相次ぎました（4月11日付ニュースレター34号参照）。

県民センター等5団体では、これを受けて環境大臣に対して「公開討論会」の開催を求め、東北環境事務所を通じて要請を行いました。

4月5日フォーラムでは、参加した専門家から「3候補地の地質、地滑りの問題点」が指摘され、候補地選定の経過、判断の根拠を示してほしいとの意見が出されましたが、担当参事官ならびに同席していた「有識者会議」委員からは会場参加者が納得のいく説明はないままでした。また、「風評被害」に対する賠償についての質問にも明確な説明がないままでした。

このフォーラムについて、環境大臣は「県民の皆さんと直接意見交換でき、大変有意義だった」と評価し、宮城県で2回目の県民説明会を開催することにしました（5月29日）。県民センターではこうした発言を受けて以下の二点を要請しました。

1. 次回の説明会の開催にあたっては、地質学の専門家、法律の専門家（弁護士）等2～3名と、環境省担当者、有識者会議「座長」等2～3名による「公開討論会」の形式をとられること
2. 「会場」は3候補地の住民をはじめ、参加を希望する県民がより多く参加できる「会場」で実施されること

当初東北環境事務所では、「要請書は受け取るだけ」としていましたが、当日は約1時間のやり取りがありました。担当官は「（5日のフォーラムは）尻切れトンボの感はあった。論点が広すぎる。テーマを絞った論議はあり得る。少人数でまずはやりとりという感じはします」と述べましたが、結局最終的には今回の要請を受け入れることはしませんでした。

【申し入れ5団体】

東日本大震災復旧・復興支援みやぎ県民センター・女川原発の再稼働を許さない！2015 みやぎアクション・生活協同組合あいこぼみやぎ・船形山のブナを守る会・子どもたちを放射能汚染から守り、原発から自然エネルギーへの転換をめざす助成ネットワーク



寄せられた署名簿を提出する県民センター綱島代表

4月26日「脱原発仙台市民会議」結成

女川原発再稼働に反対する仙台市の各団体23団体が参加し結成されました。結成集会の様子が河北新報に掲載されました。

「連絡会」青葉まつりで処分場建設反対署名

5月16日（土）、青葉まつり開催中の仙台市一番丁で署名宣伝行動が行われ、169筆の署名が寄せられました。署名は5月25日に宮城県に提出予定です。



福島第一原発事故による 宮城県内の放射能汚染マップ発表される

2011年3月の福島第一原発事故で飛散した放射性物質による汚染状態は、感度・分解能の制約により、「線量率が $0.1\mu\text{Sv/h}$ （毎時マイクロシーベルト）前後の地域においては未だ不明のまま」であることから、日本科学者会議宮城支部の南部拓未氏が宮城県内の状況を実測したマップを「日本の科学者」（本の泉社発行）5月号で発表しました。

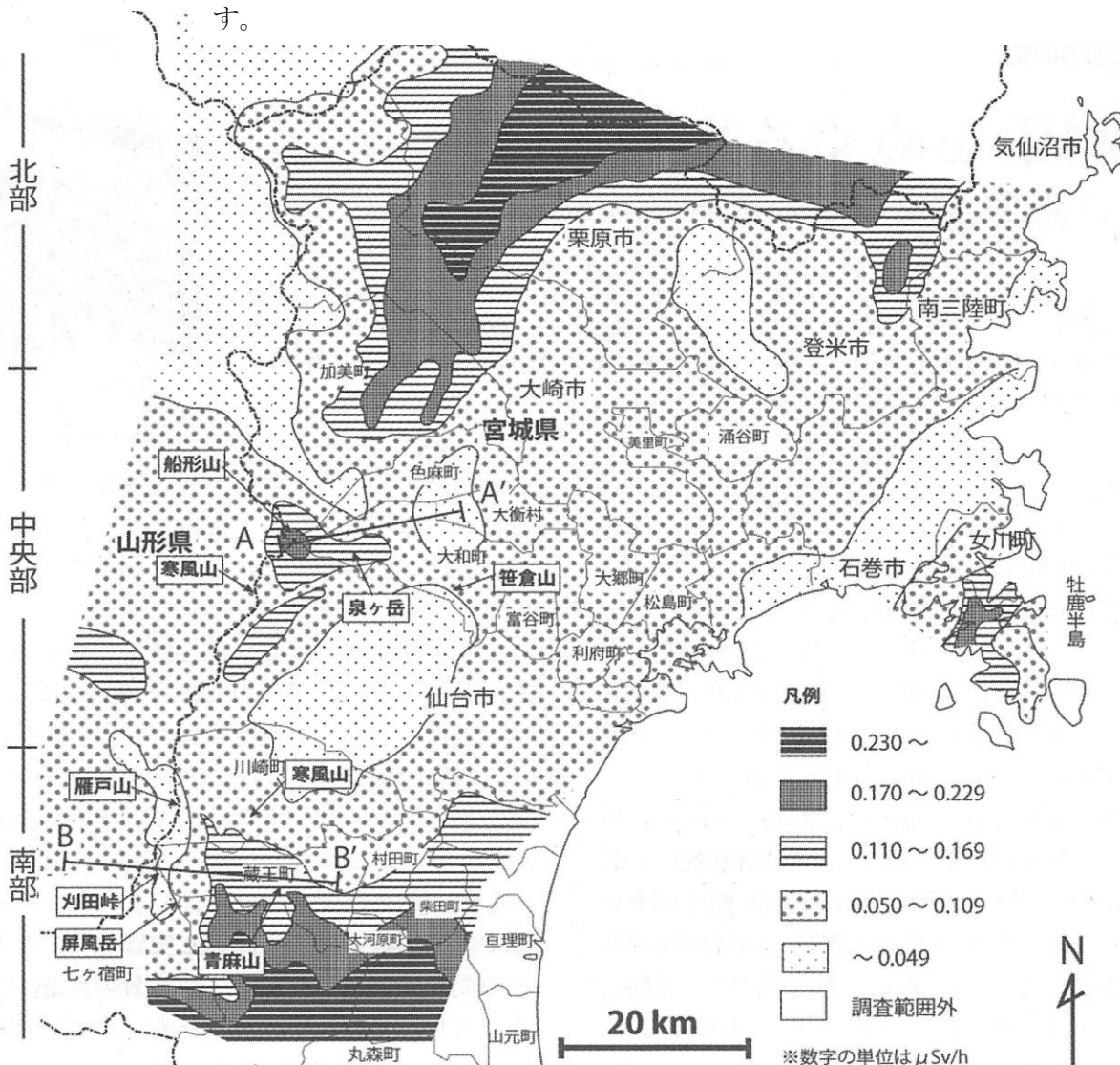
測地点数は801地点で2012年4月30日から2013年8月24日まで測定しました。草地の上1メートルでの測定値では最大値が $0.414\mu\text{Sv/h}$ 、最小値が 0.034 となっています。汚染地図については早川由紀夫氏作成のマップが知られていますが、そのマップを実測によって検証したものとなっています。また、これまで示されなかった $0.1\mu\text{Sv/h}$ 以下の汚染分布も明らかにしました。南部氏は「こうしたマップは、汚染に関するもっとも基礎となる情報であり、放射性物質の飛散を検討し、原発災害によるリスクを考えるうえでも重要なもの」とし、「本研究が原発事故の実態を把握し、再検討する一助となれば幸いです」としています。

同一条件の測定値に基づいて県内の汚染マップがまとめられたのは初めてです。

参考：「早川由紀夫の火山ブログ」URL

<http://kipuka.blog70.fc2.com/blog-entry-473.html>

「日本の科学者」5月号41ページより転載



東北メディカル・メガバンク問題 宮城県知事に公開質問状提出

当県民センターは東北メディカル・メガバンク機構 (ToMMo) が進めている事業活動について、同機構と協定を結んでいる宮城県知事に対して13年9月、14年2月の2回、公開質問状を提出し、その問題点を明らかにしようとしてきました。昨年8月には「東北メディカル・メガバンクを考える 市民フォーラム in 仙台」を開催し、広く市民とともに議論してきました。

当センターのこの問題に対する立場は「被災地対象の遺伝子研究は、創造的復興論や倫理的な面や復興予算の執行の面から不適切である」というものです。

5月13日、こうした取り組みを背景に、新たに以下の点について、県知事に対して3回目となる公開質問状を提出しました。

1. 前述「市民フォーラム」で明らかになった諸点について知事見解を示すこと

- ①遺伝子収集方法と健康調査研究に関して
- ②遺伝子情報の個人回付 (開示) について
- ③遺伝子情報管理について
- ④ToMMoの倫理綱領公表

2. 県民の権利と幸福追求権を守るために「宮城ルール」を作ること

県民センター

設立4周年総会開催

●6月21日(日)

13:30~

●仙台弁護士会館4階

震災から4年。この間の県民センターの活動の歩みを振り返り、復興本番の取り組みを考えあいます。

守りたい!いのち 暮らし ふるさと そして平和

未来をひらく5.31宮城県民集会 5月31日(日)12:00~13:30 仙台市錦町公園

ゲストトーク

菅原文太氏夫人 **菅原文子さん** (辺野古基金呼びかけ人)

「義理と人情と憲法9条」

沖縄県平和委員会事務局長 **大久保康裕さん**

「沖縄からの報告~何が問われているのか」

ライブ・アピール行進も開催!

リレートーク
県内各分野の運動から
安倍政権に言いたい!

同日開催ホスト企画

「沖縄に連帯するつどい」

150席先着順・参加無料

15:00~16:30(アピール行進終了後)

仙台市市民活動サポートセンターB1F シアター

沖縄からの報告
~辺野古は今~

講演 **大久保康裕さん** 沖縄県平和委員会事務局長

国体護持のため沖縄を踏石にして日本は「終戦」としました。それから70年の今、政府は辺野古新基地建設に反対する県民世論をことごとく無視、強権的に建設をすすめています。粘り強く、果敢に闘う辺野古の今を共有し、日本中からともに声をあげようではありませんか。もう、これ以上沖縄になにも押し付けないうと。沖縄の「戦後」を考えることは日本の明日を考えることです。

5月2日午前8時。座り込みが300日を迎えたキャンプ・シュワブゲート前。7時ごろから約30分間、ゲートから入る海保の車両を抗議の市民が止め、機動隊の実力行使で排除されました。

主催:守りたい!いのち 暮らし ふるさと そして平和 未来をひらく5.31宮城県民集会実行委員会

連絡先 ☎022-728-8812 fax022-276-5160 みやぎ憲法九条の会



県区域内で海上保安官が乗り移った際に転覆した抗議船=28日午前11時半ごろ、仙台市辺野古沖(鈴木純美子さん提供)

辺野古抗議船 海保乗り転覆

新基地建設に向けた作業が進む仙台市辺野古沖で28日午前11時30分ごろ、臨時制限区域内に入った抗議船1隻が海上保安庁の職員が乗り移ったところ、転覆した。乗っていた4人は海に投げ出され、1人が病院に救急搬送された。他に別船は、小型船が転覆したのは初めて。(26面に関連)

写真提供
沖縄県平和委員会